

発見!



おごおり遺産

No.38

天神信仰



市内およそ38の神社のうち14の神社が、菅原神やその眷属神(けんぞくしん)を祀っています。どうしてそんなに多いのか知っていますか?



乙隈天満神社



上岩田老松神社

学問の神様として有名な菅原道真。道真は、天神信仰の祭神として全国各地で祀(まつ)られています。小郡市内では、乙隈天満神社、干潟阿蘇神社、下鶴天満神社、上岩田老松神社、松崎天満稲荷神社、玉垂御子神社、稲吉老松神社、下岩田天満神社、二夕天満神社、二森天満神社、上西老松神社、光行天満神社、平方天満神社、赤川天満神社、さらに境内社(神社の境内にある

お堂や祠)や個人宅に祀られているもの、天満神社があったと伝えられている場所まで含めると、なんと40以上も天神信仰の場があります。なぜ小郡市で、それほどまでに信仰されているのでしょうか。

菅原道真は、平安時代に学者や政治家として活躍し、当時ナンバー2の右大臣にまで昇進した人物です。天皇から厚い信任を得ましたが、それを妬んだ左大臣・藤原時平により大宰府へ左遷させられ、失意の中、亡くなりました。道真の死後、落雷による被害が多く発生します。当時、雷は天の神が怒ってとどろき鳴らすものだと思われていたため、道真の靈魂が天上にのぼって天神となり、陥れた者へ祟ったのだと考えられました。



天に無実を訴える菅原道真 (「稲吉老松神社菅公縁起絵」より)

不遇な生涯を送った道真への同情・畏れ、生まれつき学問や詩歌・書道に優れたことへの憧れ、雨と水をもたらす天の神(農業神)としての崇敬は人々へと広がり、京都の北野と太宰府の天満宮を拠点として天神信仰が広まっていきました。また、天神信仰が広まったきっかけとして、安楽寺の存在もあります。安楽寺は道真の墓所として創建されたもので(のちの太宰府天満宮)、その所領には道真を祭神とした天満神社が多く創建されました。

小郡市は太宰府天満宮や久留米市北野町の北野天満宮に近く、鎌倉時代の『吾妻鏡』によると、元久2(1205)年ごろの上岩田・下岩田の一带は安楽寺の所領とされています。また、小郡市は昔から農業が盛んであったことから、天神信仰が広がり、根付いたのだと考えられます。

道真は旧暦6月25日に生誕したことから、太宰府天満宮などでは7月25日に神事を執り行います。以前は小郡市内でも6〜7月になると天神様の祠などでお籠りや子どもの行事などが行われていました。

現在、道真やその眷属神(神の使い。老松大明神など)を祀る神社への参拝や諸神事などが行われるだけでなく、天神信仰の場所や石造物、資料なども地域の人々によって大切に守られています。受け継がれ、続いてきた天神信仰を、これから先にも繋いでいきたいものです。



稲吉老松神社の夜渡(ヨド)



上西高島の天神さん

関文化財課文化財係

☎75・7555